



令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1181800156		
法人名	株式会社ふれあい広場		
事業所名	ふれあい多居夢 戸田		
所在地	戸田市上戸田1-2-11		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和7年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の住み慣れた地域で、今までご自分が過ごされてきた生活が続けられるように個々に寄り添いお手伝いさせて頂いております。一人一人の、出来ること、出来そうなことをスタッフ間で把握し、認知症状の低下により日常生活の中での困りごとを見つけ、その困りごとが少しでも緩和できるようサポートしています。一日の中では食事の準備、施設内の掃除、洗濯物干しやたむことなどの家事全般も一緒に行い皆で助け合いながら生活しています。又、余暇時間においてはカルタや数遊び、塗り絵や季節を感じるよう創作活動にも力を入れています。得意不得意はそれぞれあるものの、スタッフも一緒に作りあげ壁に掲示した時には、皆様とても達成感を感じられるように喜んでいます。散歩は積極的に出かけ、近所の方と挨拶をし交流を深めていたり、公園で小さい子を見ると目を細める様子です。日々の生活を自宅で過ごしてきた時と変わらないような暮らしを渡れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・報告連絡相談がきちんと行われ、風通しの良い職場作りに努めることで、職員のやる気ややりがい引き出されている。利用者の尊厳・人格・個性を大切にしながら、役割をもち自分らしく笑顔で生活ができるよう、職員一人ひとりが理念に基づき、心を込めたケアを実践されている。また、近隣の方々との交流を通して、地域の繋がりを深める努力がなされている。
・運営推進会議については、事業者から日頃の取り組みや事故報告が行われ、健康長寿課職員や家族などの参加者からは、地域の情報や質疑応答など活発に意見交換がなされている。家族からのカラオケ会開催の提案や、その他の要望が寄せられ、事業所の運営に反映されている。
・目標達成計画の達成状況については、災害対策に取り組みされ、訓練後の振り返りを活かし、災害想定シミュレーションを行いロールプレイングを実践されたこと、運営推進会議が対面での開催が再開されたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に見える位置に掲示し、日々のケアに活かすようにしている。アセスメント、ケアプラン作成時に施設理念を意識している。理念に基づき、個々のニーズに柔軟にケア出来るようにサービスを提供している。	理念を掲示し会議の際には唱和を行い、職員が共有し毎日のケアに活かされている。利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、寄り添う心で介護を実践し、利用者や家族との信頼関係が築かれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会関係の参加やボランティア受け入れは中止している。近隣との挨拶や掃除を実施している。	法人として町内会に加入しており、日常的に挨拶を交わし交流がなされている。コロナで中止となっていたオレンジカフェ、中学校の職業体験、看護実習生の受け入れなど、地域交流の復活を準備されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前はオレンジカフェやボランティアの受け入れをしていたが、今は中止している。認知症ケア相談室の窓口であるため、問い合わせがある場合は対応をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回実施している。家族、地域包括、市役所の参加があり、施設からの報告や意見交換、質疑応答している。	運営推進会議は、ご家族、健康長寿課職員、包括が参加され有意義な情報交換の場となっている。カラオケ店のオーナーだった利用者の店を活用し、毎月のカラオケ会開催を企画されるなど、活発な意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録や事故報告を提出し、情報共有をしている。	市の担当者と定期的に情報交換が行われている。市と連携し認知症相談室を設置し、市主催の「トコカフェ」に参加され、地域の方々の認知症理解や相談対応に尽力されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設け、年4回の会議を実施している。議事録を掲示し全員が内容を把握している。e-ラーニングでも学び、身体拘束のないケアが実施されている。玄関は電子錠となっている。	年2回虐待防止委員会が開催され、オンラインや動画で研修を実施し、理解の為にチェックリストが活用されている。不適切ケアに対しては管理者だけでなく、職員同士で注意を合える関係性が育まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設け、年2回の会議を実施している。議事録により内容を全員に周知している。不適切な関りになっていないか、自己チェックシートを実施して振り返ることにより、意識を高めることが出来ている。フロア会議で共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	e-ラーニングにて研修を実施している。事例が施設内で少ないため、資料を参考にしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には十分は時間を取り、読み合わせをしながら説明していく。少しでも疑問点があればその場で説明し、ご理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で上げられた質問や要望においては議事録に載せ、情報を発信している。又、面会等で来訪されたご家族様からの意見は職員全体に共有し把握に努めている。	運営推進会議議事録で、意見交換の様子を家族へ情報発信されており、寄せられた意見は職員間で共有され運営に活かされている。「一緒に食事をしたい」、「甘い物を差し入れたい」など要望に対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議で入居者様に関する事や、業務改善等の内容を話し合い、よりよいケアが出来るよう実践している。各フロアの状況をリーダー会議で共有することにより、施設全体の内容を把握している。	業務改善の提案や要望などを書面で提出し、会議で話し合い改善をする仕組み作りが構築されている。日頃のコミュニケーションを大切に、どんなことでも職員が相談し易い環境作りに努力されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段より職員と話すようにし、何かあれば相談しやすい環境を作っている。勤務状況を把握し、良い所は褒めやりがいや向上心を保てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月e-ラーニング研修を実施。外部研修の参加希望の際は、シフト調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や全体会議後の勉強会実施。他施設での情報を共有し、サービスの質を向上へとつなげていく。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際、本人や家族と話し、不安や要望、どのような生活を望むのか聞き取りを行いケアプランを作成。入居後は本人との信頼関係を構築するようケアにあたる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約時に、今までのいきさつや不安、施設に望む事を聞き取っている。本人や家族の意見や思いを受け止め、それに応えることにより信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、本人、家族の要望や様子を見極めケアプランに反映させている。入居後、様子変化時は職員で話し合い、ケアを行っていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を発揮出来るようサポートしている。自立支援を心掛け、スタッフと一緒に生活を共にしている。役割を持った生活を送ることにより、職員と入居者と共に生活している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調変化や何かあった場合は、家族へ報告している。職員だけでなく、家族も含め本人を支える意識を持ってもらうよう信頼関係を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの場所や人に会うため外出している。入居前の近所の方の面会を受け入れている。本人が築きあげた関係が継続できるよう支援している。	家族の協力を得て馴染みの場所や友人と会うための外出、電話で話すなどの支援がされている。ラジオ体操の習慣がある方は継続できるよう配慮され、リクエストにより昔の歌の動画も楽しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、穏やかに共同生活が送れるよう配慮している。介護度が高い方でも孤立しないよう、皆と一緒に歌をうたったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設から病院へ移設しても、看取り時に本人らしく最期を迎えて欲しと家族からの要望で、再度入居となった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や言葉から希望を汲み取り、本人らしい生活が送れるように支援している。	日頃から傾聴を心がけ信頼関係を築き、入浴や散歩など1対1の場面で、自然と本音が引き出されている。意思疎通が困難な利用者の言動を共有することを積み重ね、思いや意向を汲み取る努力をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握している。本人からも昔の話を聞くようにし、情報収集をしている。入居前のサービスを利用していた場合は、内容に目を通し内容把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、健康面や状態の変化があった場合は職員間で情報共有し、記録にも残しておく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議でカンファレンス実施。必要時には担当者会議を開き、本人、家族、Dr. と話し合いを設けている。	日頃のかかわりのなかで本人や家族の意向を汲み取り、フロア会議での話し合いがプランに反映されている。半年ごとに見直し、状況変化があった場合は、その都度アセスメントを実施し変更が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、ケアを実践している。日々の記録はケアウォッチャーに入力し、申し送りすることにより情報共有している。フロア会議でのカンファレンスにより介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に外部受診は家族対応だが、KPが高齢な方の場合、職員も同行し医療と連携を取った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部ボランティアの受け入れは見送っている。医療関係のやり取りが主となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診あり。必要であれば、往診医から家族に直接説明することもあり、納得のいく説明と信頼関係が保たれている。	各フロアで月2回交互に往診があり、必要に応じてきめ細かく対応がされている。認知症専門医や整形外科受診は、家族に協力をお願いし情報はその都度共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護がある。異変時には訪問看護から往診医に情報を繋ぎ、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の相談員と連携をとり、スムーズに退院できるよう情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態低下時は早い段階で家族と施設で話し合い、情報共有をする。家族の意向は都度確認している。終末期には主治医からの説明、同意を得て看取りケアに取り組んでいる。	契約時に意向の確認を行い、重度化に伴い主治医から説明、同意を得て、相談をしながらケアが行われている。職員は看取りに関しての研修を受け、看取り後の心のケアも図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のフローチャートに基づいて実施している。マニュアル掲示。フロア会議で事故の見直しをし、振り返ることにより意識づけ。研修実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防災訓練を実施。水平、垂直避難とともに入居者様に負担がかからない範囲で一緒に行っている。	昼夜想定で年2回の避難訓練を実施し、職員全員が参加できるよう調整をされている。参加出来なかった職員は研修で理解を深め、いつでも確認できるようにマニュアルが配置されて、平準化に努められている。	町内会の避難訓練への参加や、事業所の避難訓練に近隣の方に参加いただき、見守りの協力をお願いするなど、地域ぐるみでの相互の協力体制作りに期待いたします。

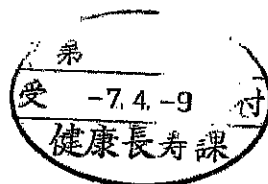
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な関りになっていないか、フロア会議で振り返りをしている。人として尊重し接することにより、おのずと言葉遣いも丁寧になっている。	起床時間、入浴、レクへの参加などを強制せず、選択肢を示して自己決定しやすい言葉遣いをされている。本人の尊厳を守る為、あからさまなケアで不快な気持ちとならないよう、配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で選択する場面では、本人の意思を尊重している。相手によってオープン、クローズドを使い分け、意思表示しやすいよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで生活のリズムをとってもらうのではなく、一人一人のペースに合わせている。お風呂も入りたくない日は、次の日にするなど、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声掛け、洋服が好きな方が多いので、本人の好みを尊重しながら季節にあったものを来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛付を手伝っていただいたり、テーブル拭き、食後の片づけを一緒に行ったりしている。10時とおやつ飲み物を決めてもらい、好みのものを飲んでいただく。	食器、おやつや飲み物を選んだり、盛り付けなどの準備や片づけに参加をいただき、食事への関心を高めておられる。行事食で鰻やちらし寿司、ファーストフードをテイクアウトするなど、食事を楽しむ工夫をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の記録と把握。水分が少ない方には好みの飲み物を提供したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。自身で難しい場合は、職員が手伝う。入床前に義歯は預かり洗浄し翌朝返却する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄能力の把握。声掛けが必要な方は、定時誘導している。排泄パターンをつかみ、なるべくトイレで排泄出来るよう支援している。	排泄リズムを把握して個々に誘導し、失敗した場合も自尊心を傷つけないよう配慮し、排泄の自立支援がなされている。職員間で申し送りをしながら、快適な排泄コントロールに努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因(水分、食事、薬の副作用等)を探り解決に導いていく。歩くなど適度な運動や、薬によって排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、順番などは決めず、当日声をかけるようにしている。入りたくない時は無理せず、翌日に入ってもらい。入浴剤を数種類用意し、本人に選んでもらう時もある。	入浴日や時間は、意向に添って柔軟に対応し、職員との会話も楽しむゆったりとした時間となっている。拒否がある方も紫色の入浴剤なら喜ばれる、など好みの把握が共有され、個別の支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況によって、臥床してもらい身体を休めてもらっている。朝バルコニーへ出て日光を浴びることにより夜眠れるように工夫している。寝具、室温、照明を本人に聞いて適度に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認している。特に薬に追加、変更があった場合は内容を把握して職員同士でも情報共有をしている。疑問点がある場合は、薬剤師に確認を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好きなことや得意なことに参加してもらい。苦手意識のあるレクなどは職員と一緒に参加するようにし自尊心が損なわれないよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩や市役所のイベント等に出かける。家族付添のもと外出の実施している。施設での外出レク(初詣等)は実施出来ていない。	近隣の公園や市役所へ散歩へ行き、地域のお子様達との触れ合いや、寒い日も外気浴を楽しまれている。また、ホームセンターへ苗を買いに行き、庭の家庭菜園でピーマン・トマトや花の栽培に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は持ち込み禁止となっている。ただ、持つことにより安心するケースは家族に了解を得て小銭程度持ってもらう時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は、家族や友人と連絡を取り交流を続けている。家族から施設にかかってきた電話を本人に繋ぐこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしている。室温は快適に感じる程度が個々に異なる為、都度確認している。外の光が反射して眩しい時は、カーテンで調節して不快にならないようにしている。	利用者が生けた季節の生け花や、制作した様々な創作物が飾られている。洗い物や洗濯物干し・洗濯物のたたみ・テーブル拭き・掃除などを、利用者それぞれが出来ることで役割分担がされており、清潔で居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地がよくなるよう食席の位置に配慮している。気の合う方を隣同士にするなど、リラックスできるよう工夫している。席はほぼ決まっているが、その日によって変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置いたり、写真を飾るなどして安心して心地良く過ごしてもらおうようにしている。持参品は家族と話しあって決めることもある。	自宅より持ち込まれた家具を配置し、写真や塗り絵などの制作物を飾り、安心して過ごすことが出来る居室となっている。レクに参加せず、居室でゆっくりと自身のペースで過ごす方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごしていただくために、廊下やフロアの整理整頓を実施。目印やイラスト、居室やトイレの場所を分かりやすくしている。		

(別紙4(2))

目標達成計画



事業所名: ふれあい多居夢戸田

作成日: 令和 7 年 4 月 9 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	施設内の防災対策について。現状は入居者と職員のみで年2回実施している。実際の非常・災害時には地域の方の協力は必要不可欠だが、その点が希薄化され協力体制が得られていない	地域との繋がりを強化し、災害時には双方の協力体制を整えることが出来る	①近所の方に施設の防災訓練参加の声掛けをする ②水消火器の体験や見学をしてもらう ③地域の消防訓練に見学、参加をする	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話合った
	☐ ②利用者へサービス評価について説明した
	☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	☐ ⑤その他()
2 自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
	☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話合った
	☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話合った
	☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	☐ ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	☐ ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話合った
	☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話合った
	☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話合った
	☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話合った
	☐ ⑤その他()
5 サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	☐ ⑤その他()